

## 令和2年度 第3回滋賀県環境学習等推進協議会 議事概要

日時：令和3年1月29日（金）10：00～12：00

場所：県庁北新館5-B会議室（オンライン開催）

出席：参加委員13名

事務局 環境政策課、琵琶湖博物館環境学習センター、教委幼小中教育課  
教委生涯学習課

### ■議事(1)「第四次滋賀県環境学習推進計画」(原案)に対する県民政策コメントの結果 について

資料説明：事務局（環境政策課）

委員：

- （資料1-2 P.3/6 No.11について）環境学習センターのメールマガジンや県ホームページで県民の皆様へ情報提供していくとあるが、もう少し積極的に県民に働きかけるような、動きを促すような、積極的な発信の仕方が必要ではないか。

委員：

- 今後、情報発信するときは今の発信の方法だけでなく、様々なSNSなどの媒体を考えてはどうか。

委員：

- 前回の議論やパブリックコメントにもあったが、「学び」という言葉の使い方について、概要版の記述で、「単なる「学び」にとどまらず」とあるが、「学び」はそういうことではないと思った。「学び」のところに、「学び（理解する）」などが入ったらよいのではないか。

委員：

- 協働による推進ということについて、県民・企業・行政の協働もあるが、それ以外に県庁内での様々な部署による協働も必要ではないかと思う。

委員：

- （資料1-2 P.3/6 No.22）パブリックコメントの回答として「県温暖化対策課を中心に・・・進めてまいります」とあるが、「・・・の学習を取り入れてまいります」というような書き方に換えたほうがよいのではないか。
- ネットゼロに関する意見が多いが、環境学習の中で気候変動学習に占める割合がま

だまだ少ないと思われているので、様々な学習の中に気候変動学習を取り入れて進めてはどうか。

委員：

○パブリックコメントの件数を増やすことは大事だが、現時点でパブリックコメントの募集の情報がどこに行っていてどこに行っていないのかという分析はしておいたほうがよいのではないか。発信していない人にどうアクセス・アプローチするかを戦略的に考え、情報の発信方法を検討していければと思う。

委員：

○（資料 1-2 P. 4/6 No. 17～19 について）かなり具体的な意見が出ている。それに対する考え方の案として、今後の施策の参考にすると書いてあるが、もう少し具体的に考えが出せるのであれば書いた方が、見ていただいた方にも通じやすいと思う。

委員：

○「学び」という言葉の使い方は今後改善していくのがよいと思う。体験や行動、知識を得ることも含めて「学び」ととらえると、ギアモデル内の「学び」は言葉を変えた方が見たときに分かりやすいと思う。

○脱炭素に関する意見が多いと感じた。世界も国も脱炭素社会づくりに重点的に取り組む機運になってきているので、そこに向けた人づくりという点では環境学習の計画にも関わるようなことだと思う。

委員：

○（資料 1-4 P. 13 について）ユースの活動が課題ということに関して、本文ではあまり高校生に関する記述がなかったかと思う。「学校等」のところで、高校生は主体的に課題を解決していく学び方が大事になるので、ここに盛り込むのか。何かこういうことをしていくということを、パブリックコメントの考え方で入れるのか、また、何か良い活動例を入れられたら良いと思う。

委員：

○パブリックコメントにおいて概要版は結構な方が見られるが、わかりにくいことが多い。概要版のところに本文の頁を入れたり、ウェブへ飛べるようにしたり、わかりやすく工夫できないか。

委員：

○パブリックコメントの意見では気候変動、脱炭素社会づくりを中心にもっていく

べきという視点が強いが、基本目標になっている、地域・地元、自分たちの足元をちゃんと理解して、地域、琵琶湖、家庭から行動しながら、大きな社会の変化につながるような、そこを理解できる人を育てていく趣旨を本文で書いているつもりだが、伝わりにくいことを感じた。

## ■（２）「第四次滋賀県環境学習推進計画」の進行管理の方法について

資料説明：事務局（環境政策課）

**委員：**

- 人材育成の柱の関連指標の違いについて、（１）①は環境教育担当教員参加者数、②参加者満足度とあるが、単なる参加者数というよりは、指標はなるべく具体的にしたほうがよいのでは。

**委員：**

- 関連指標は統一（数、満足度、関心の向上などの指標の統一、量的・質的の統一など）したほうが良いと思う。統一した指標で複数の事業を分析することで、全体としてより深い評価ができると思う。
- 環境学習プログラムの代表事業について、幼児対象だけではなく、ほかにも家族・ユース・30～40代の人・事業者など、主体別の代表事業を挙げられるとよいのでは。

**委員：**

- 情報提供の関連指標について、登録数より、登録されたプログラムが実際に何回活用されたか、だれがどのように活用したかということのほうが大切だと思う。